

陸上運動部部便り

2010年4月号

六大戦

目次

1	六大戦	1
1.1	監督の言葉	1
1.2	主将の言葉	1
1.3	試合経過	2
1.4	試合結果	8
2	09年度部内五傑	10
3	自己記録更新者一覧 2009.10.24~2010.4.3	10
4	主務より	11
4.1	応援OB・OG紹介	11
4.2	行事予定	12
4.3	連絡先(慶甲等)	12

1 六大戦

1.1 監督の言葉

監督 藤田 靖浩

シーズン最初の試合となる六大戦は、雨こそ降らなかったものの肌寒いコンディションの中、国立競技場にて行われました。総合順位は5位。下位入賞を中心に点数を重ねたものの、4位の明治大学にトラック種目で大きく引き離され、残念ながら例年通り個々の選手の結果を見れば、初戦としてはまずまず。円盤投の佐々木(38m02、3位)、三千メートル障害の青木(9'27"96、6位)を始め、小幅であってもしっかり自己ベストを更新した選手が多かったように思います。一方、故障者や体調を崩しているものが多く、万全の体勢で臨めなかったこと、また、いい意味でのサプライズがな

く、上位入賞者が少なかったことが反省点としてあげられます。

まだまだシーズンは始まったばかり。今回の反省を活かし、一ヶ月後の関東インカレには、七年振りの昇格に向けて万全の体勢で臨みたいと思います。

今後とも変わらぬご指導ご鞭撻をお願い致します。

1.2 主将の言葉

主将 酒谷 彰一

各自が持てる力を発揮もやや爆発力に欠ける

2010シーズンが開幕しました。初戦である六大戦に向けては、今年度のスローガン「日本を驚かせるチームになる」のもと、実績のある選手たちにどれだけ喰らいつけるかを試すと共に先の試合を見据えたパフォーマンスをしようというスタンスで臨みました。

結果はいつも通りの5位というものでしたが、最近スポーツ推薦で選手を集め出した立教大学に勝利したことには大きな意義があります。また、3月のグラウンド改修により練習場所が確保できず土曜日以外は各パートバラバラで練習するという厳しい状況の中で、ほとんどの種目において昨シーズンの最盛期に匹敵する水準の記録を出すことができました。これは応援席を含めた全部員が一丸となり、集中して闘い抜いた結果だと思えます。

その一方で課題となったのが、関東インカレや七大戦で勝負できるレベルの新戦力の名乗りがあまり挙がらなかったことです。夏までに各パート1人ずつ覚醒してくれば七大戦の優勝を手中にできると踏んでおりますので、今回円盤投で3位に入賞した佐々木(2年)、3000m障害で大きくベ

ストを更新した青木(3年)、強豪校の中で4位に食い込んだ4継チームに続く存在が続々と出てくることを願うばかりです。

今後はこのいい流れを生かし、5月頭までの記録会ラッシュにおいて一人でも多くの関東インカレ標準記録突破者を出し、そして関東インカレ本番で一部昇格を狙う態勢が築けるように生まれ変わったグラウンドの元で更なる精進を重ねて参ります。これからも変わらぬ御支援と御指導のほどよろしくお願い致します。

1.3 試合経過

トラック

9:50 男子110mH 予選

酒谷(4年)と増本(4年)の出場。ただよう雲が太陽を覆い冷やかな天候の中、レースは行われる。トラック最初の種目であり、東大得点のためにも、チームに良い流れを作るためにも、予選突破を目指したいところ。

まず1組2レーンに酒谷の出場。反応は悪くない。しかし1台目のハードルに激しく足をぶつけて大きく出遅れる。体勢は立て直したが、中盤以降動きが固くなり差を広げられ、15"67の5着でフィニッシュ。このとき風は+0.3m。予選通過がとても微妙な結果となった。

次に2組6レーンに増本の出場。増本はスタートでやや出遅れ、ペースが乱れ動きが固い。一方、他大選手の動きは良く、差を広げられる。それでもなんとか前に食らいつこうとするが差は縮まらず、15"81の4着でゴール。このとき風は-1.2mであった。

酒谷はプラスで拾われなんとか決勝に進出。決勝での活躍が期待される。

10:25 男子400m 予選

大澤(2年)、舩島(3年)が出場。シーズン最初の試合でありまだ本調子ではないが、強豪校の選手の力を借りて何とか好記録を狙えるか。

まずは1組2レーンに大澤の出場。前

半を抑え気味にスタートした。周りの選手がどんどん加速する中、一人置いていかれるような印象であったが、150m付近で大澤もトップスピードに。しかし周りの選手のスピードはさらに速く、差は縮まらない。200mを過ぎて300mに入るとき、周りが急激に減速していく中で、大澤は減速をしないように努め、前を走る選手を捕えていった。記録は50"67の5着だった。大学ベストの記録である。

次に2組7レーンに舩島の出場。スタートから飛ばしていき、周りに高いレベルの選手がいる中で、舩島は周りを離していく。このまま行けるかと思われたが、バックストレートで徐々に減速していき、200mから300m付近で後ろにいた選手に次々と追い抜かれていく。ホームストレートで力を振り絞るも、巻き返すことはできなかった。記録は、スタートから2m付近で内側に侵入したとの判定により、残念ながら失格であった。

二人とも決勝進出はならなかったが、シーズンは始まったばかり。二人はまだまだ記録を上げていける選手であり、今回の反省を活かして次の試合以降で良い結果を出してもらいたい。

10:40 男子100m 予選

1組7レーンに春日(3年)の出場。気温はやや低いが、いい追い風が吹いており好記録も期待される。一度ライニングがあり、改めてスタートとなる。良いスタートを見せるが徐々に周りに差をつけられ始め、終盤は足がからまり思ったような伸びを見せることができず、11"22の5着でフィニッシュ。この時の風は+1.2mであった。

2組3レーンに西田(4年)の出場。この組では日本トップクラスの小林(法大)も出場する中、どこまで力を発揮し食らいつく事ができるかが注目された。西田は良いスタートを見せ周りの選手に離されること無く加速していく。しかし、段々とトップと差をつけられていき、4着争いの中に。それでも落ち着いて自

分の走りを展開し、後半は粘りを見せ11'11の4着でフィニッシュ。この時の風は+1.7mであった。春日は惜しくも決勝進出はならなかったが、西田は見事決勝に進んだ。

11:45 男子 800m 決勝

1レーンに園部(4年)、9レーンに渡邊(4年)の出場。昨年から実力をつけてきた両名だが、園部は春先の怪我、渡邊は直前の体調不良で調整不足のまま試合に臨むことになった。その中でもいかに勝負に絡み、得点を獲得できるか。

変則的な12人によるセパレートスタートで両名とも1レーンからスタート。渡邊が積極的に前に出て園部が後に続く。ブレイクすると渡邊が先頭に立ち、園部は後方につく。200mの通過は26"9。ここから他の選手が位置を上げ、渡邊は5番手に下がるが、園部は6番手に上がる。400mの通過は57"5。再び他大学の選手が外から位置を上げようとするが、東大勢はポケットされないように粘る。しかし500m過ぎで渡邊は10位に順位を落とし、園部は足が止まってしまう。渡邊はそれでも粘りながら600mの通過は87"9。700mあたりで1人かわすと、そこからスパートをかけ、ゴール直前でさらに1人かわしてフィニッシュ。1'58"08の8位であった。園部は終盤はキツイ走りとなったが最後まで走りきり2'02"16の12位でゴール。

対校得点は1点を獲得した。渡邊は直前の体調不良が残念ではあったが、持ち前の勝負強さを発揮し得点獲得という最低限の仕事を果たしたのはさすがであった。関東インカレでの活躍に期待したい。園部は春先の怪我で中々練習が積み重なった中でもしっかり走りきり、初めての対校戦ながら調整力の高さを見せた。再びしっかり練習を積んだ上での、5月以降の活躍に期待したい。

12:35 男子 3000mSC 決勝

青木(3年)、渡邊駿(2年)の出場。日は照っているがやや肌寒い中での試合と

なった。3月14日の立川ハーフから調子を上げてきている青木には大きな期待がかかる。渡邊は春季OPで10'05"65を記録して対校戦として初出場。自己ベスト更新(9'59"以内)を目指す。

序盤からハイペースな展開となる。集団の中で青木が10番手、渡邊が11番手につく。1000mの通過は青木が3'00"、渡邊が3'03"。中盤、青木のすぐ後ろを走っていた渡邊のペースが落ち始めた。青木は集団には入らず自分のレースを展開。2000m通過は青木が6'13"、渡邊が6'31"。その後も青木はペースを崩すこと無く序盤に飛ばしすぎた他大の選手を確実に抜いていき9'27"96で6位でゴール。渡邊は立大、慶大の選手と集団を作り、ラストで引き離して9'58"26で8位に食い込んだ。

両選手が自己ベストを更新し、六大戦というレベルの高い大会で得点した意味は大きい。トラックシーズンは彼等の更なる飛躍を期待したい。

13:05 男子 4 × 100m 決勝

雲の多かった午前とは打って変わって、晴天に見舞われた午後。増本チーフ率いる新生リレーメンバーの初陣である六大戦、4 × 100mR。どこまで食い込めるのだろうか。

7レーンに増本(4年)-西田(4年)-真木(2年)-春日(3年)の走順で出場。号砲と共に軽快に飛び出た増本、出だしは悪くはなかったが50m付近で内側のレーンの慶大に捕らえられてしまう。食らい付いていきたいところだが、差を若干広げられつつ、西田にバトンが渡る。100m10秒台の記録を持つ西田、ここで何とかして他大との距離を縮めたいところ。しかし、早大の江里口らの快走が光り、思うようなレースをさせてくれない。西田の健闘の結果、立大と競るところか。ここで真木にバトンが渡る。危なげないコーナーワークで手前にいる慶大に食らい付いていく。そしてアンカー春日に近付くが、春日が早めに走りだしたのか、真木

なかなか追い付けない。固唾を飲んで見守る中、なんとかバトンは春日に渡る。中盤で立大の前に出る。ここで一気に慶大に追い付きたいところだがなかなか差を縮められない。結果は早大、明大、慶大に続いて、42"34の4位でフィニッシュ。今回は初陣ともあって至らないところが少なからずあったが、まだまだ改善の余地がある。チーム増本の今後の活躍を期待したい。

13:30 男子 110mH 決勝

2レーンに酒谷(4年)の出場。朝から気温が上がらず冷やかな天候の中、レースは行われる。他の大学の実力者が並ぶ中、酒谷の入賞が期待される。号砲が鳴る。危なげなく走り始めるが、上手く加速できない。やや出遅れたスタートになってしまったが、その後はだんだんスピードに乗り始め、前を行く集団になんとか食い下がる。中盤以降でなんとか差を詰めて少しでも得点を上げていきたいところだったが、終盤は動きが固くなってしまい、そのまま15"56の7位でフィニッシュ。このとき風は-2.4mであった。この種目で東大は辛くも2点を獲得した。ハイレベルなレースでいかに自分の走りを貫けるかが、酒谷の今後の課題であろう。この大舞台での経験を経て強くなった彼の活躍が今後期待される。

13:25 男子 1500m 決勝

山田(3年)、大内田(2年)の出場。池田(3年)が前日に体調を崩したため、大内田は急遽の出場となった。

1周目は山田が集団の中頃につけ64"で、大内田は集団の後方で65"でそれぞれ通過。2周目は全体として67~68"と六大戦にしてはスローペースとなった。800m過ぎから先頭のペースが上がる。大内田はペースアップし、山田は大内田についていったものの、2人とも集団のペースには対応しきれず離されてしまった。最後は山田が意地を見せ大内田を抜き返して4'09"46の10位でゴール。大

内田はラストスパートがきかず4'10"84の11位であった。

山田は中距離の練習に参加してまだ1ヶ月程度で、今回のレースであまりスピードが出せていなかったようだが、これから徐々にスピードを取り戻していくことで活躍が期待できる。一方大内田は前日まで新歓係として働きながら突然の出場であり、またタイムの出しにくい展開ながら自己ベストを更新しており、今季も更なる飛躍が期待される。

14:50 男子 100m 決勝

8レーンに西田(4年)の出場。西田はこの日これまでに100m予選、4×100mR、走幅跳、三段跳に出場しておりかなりの疲労が溜まった中でのレースとなる。さらに、周りは関カレ1部で活躍する強者揃いだが、ここで成果を上げればチームに勢いがつくことは間違いない。

号砲が鳴る。スタートダッシュは予選に続き好調。レース序盤は大きく離されることもなく良い展開だ。しかし、中盤に差し掛かってくると徐々に差が開きだす。西田自体の走りが悪いということは決してないが、やはりトップ選手の力が一枚上であったようでその差をなかなか詰められない。レース後半からは6位争いとなり、そのまま11"06の同着6位でフィニッシュ。この時の風は+0.3mであった。

これだけ疲労が溜まった中でのこの記録はなかなかのもの。今後の活躍に期待するとともに、その他の短距離勢の奮起が必要であることを再認識させられたレースであった。

15:25 男子 5000m 決勝

東(3年)、宮野(3年)の出場。レベルの高い選手が揃っており、格上相手に食らいついて少しでも上の順位を目指したいところ。晴天だが気温は高くなく、まずまずのコンディションであった。

スタート後すぐに飛び出した早大・明大の4選手にはつかず、東・宮野は法大

の鍵谷・近藤、慶大の斎藤と第2集団を形成し、1000mをそれぞれ2'55"、2'54"で通過。東は集団の後尾で落ち着いた走りを見せる一方、宮野は集団を果敢に引っ張り、対照的なレース運びである。宮野は2000mまでには集団内に後退したが、ハイペースで引っ張ったことが功を奏したか、近藤が遅れ始めて第2集団は4人に絞られ、得点への期待が高まる。3000mを過ぎると2人ともに苦しくなった。東は何とか粘って食らいついたが、鍵谷・斎藤がペースを上げると対応できず、15'05"04の7位でゴールした。宮野は序盤の積極的な走りが影響したか、そのまま徐々に離されていき、15'17"75の8位でゴール。

東も宮野も決して好調とは言えなかったが、最低限の役割を果たす走りであった。今シーズンも2人の活躍に期待したい。

16:40 男子4×400mR 決勝

2レーンに舩島(3年)-大澤(2年)-渡邊(4年)-赤木(4年)の順で出場。短長・中距離という2パートに渡った陣容で戦いに挑む。

1走の舩島は前半を控えめに走るが、バックストレート以降はスピードを上げていき、50"74のラップで2走に繋ぐ。2走の大澤は当日の400mでは大学ベストを更新し、復調の兆しを見せ始めていたが、ホームストレートで得意のラストパートをかけるも他大の5チームに差をつけられた状態で53"49のラップで3走にバトンパスをする。3走の渡邊は中距離選手らしい走りですamina切れすることなく、後半も力強い走りを見せるが、上位につけられた大きな差はあまり縮まることなく52"45のラップでアンカーにバトンパス。4走の赤木は本調子とは言えない状況であったが、諦めず最後まで前に追いつこうとし、52"39のラップで走る。結局苦しい展開を覆すことはできず、3'29"07の6位でフィニッシュ。

その日のベストのメンバーで臨んだ

が、他大との比較においては走力不足であることが浮き彫りとなったレースであった。今回の反省を生かし、関東インカレには個々人が最高の状態で臨めることを期待したい。

フィールド

10:00 男子走高跳 決勝

地子(5年)、坂本(4年)の出場。10:00の競技開始でこの日最初の決勝種目となる。すこしでも良い結果を残し、部全体に良い流れを作りたい。

地子は1m60からの跳躍開始。1m60、1m65ともに1跳目で成功し、自己記録の1m70に挑戦。1跳目、2跳目は失敗に終わるが、3跳目はうまく体が浮き、見事クリア。続く1m75では比較的良好な跳躍をみせるものの成功はできなかった。坂本は1m65からの開始。1m65、1m70は難なくクリア。1m75は1跳目、足でバーを落とし失敗するも、2跳目で成功。続く1m80は体は浮いたもののうまくクリアできず3跳とも失敗に終わった。

結果、坂本が記録1m75で8位、地子が記録1m70で10位となった。地子はシーズン初戦で自己ベストタイ記録を出せたという点で、良いスタートができたと言える。坂本は、関カレ標準突破も視野に入れて、今後調子を上げてほしい。今回は何とか1点獲得したものの、走高跳は選手層が薄く、対校戦では弱い種目の一つといえる。今後、両選手ともさらなるレベルアップを期待したい。

10:00 男子やり投 決勝

原(4年)、今村(2年)の出場。今年はやり投がフィールド最初の種目であったが、晴れてはいたものの気温は高くなく、風が吹くとかかなり寒く感じられる中での競技となった。原は専門が十種競技、今村はやり投初試合であり、六大戦において上位をうかがうのは厳しいが、今後の対校戦につながるような試合をしていきたいところである。

原はリズムのよい投げで1投目に40m台の記録を出し、2投目もなかなかの投擲をみせ、40m77を記録。しかし、その後は記録を狙いすぎたか、体の開きが早く、投げ急ぐような投擲になってしまい、記録が伸ばせず7位だった。今村は練習投擲の時からかなり緊張した様子であり、1投目、2投目と全く自分の投擲ができなかった。3投目は落ち着いているようにこそ見えなかったが、練習の成果を発揮した大きな投げを見せ、33m13で9位であった。

記録から見れば、二人とも現段階での自分の力を比較的発揮できたようである。しかし、今回の記録では今後の対校戦においてもかなり厳しい戦いとなるだろう。昨年までは得点の見込める種目だっただけに、より一層の奮起を促したい。

12:30 男子走幅跳 決勝

西田(4年)、酒谷(4年)の出場。正午過ぎ、各大学の応援合戦で会場が盛り上がる中、助走練習が開始される。

西田は1本目に6m63を跳ぶ。2本目は、四継出場のためパスしたが、3本目はスピードに乗った助走で6m73を記録し、全体で6番目の順位となる。だんだんと気温が下がり風が巻く難しいコンディションの中、4本目も6m73を記録するが、5本目は着地が決まらず6m61、6本目は惜しくもファールとなり、6m73で6位に終わった。酒谷は1本目、踏切板に乗らないまま5m81の跳躍をするが、2本目以降は110mH決勝のためパスした。結局、ベスト8に残ることは出来きず、5m81の9位に終わった。

両者とも、今大会では他種目出場の中、最低限の仕事を果たしたことは十分評価出来るだろう。西田は今後も他種目出場が予想されるが、本職のこの種目でしっかり記録を出すことを期待したい。定金の怪我の回復を待つことはもちろんだが、跳躍パートが人員不足であることは否めないの、酒谷にも走幅跳での進

化を期待し、跳躍種目での得点を安定させてゆくことが今後の課題であろう。

12:30 男子円盤投 決勝

佐々木(2年)、片山(2年)の出場。日が陰り気温が下がっていく中競技が開始された。昨年度は実力がありながらも、満足いく成績が残せていない2人であり、ぜひ記録を出しておきたい試合であった。

体調を崩していた佐々木は1投目に35m近く投げるもファールとなるが、2投目で38m02を出し一気に上位に入る。しかし、この後の投擲は安定して35mを超すが2投目を超えられず、38m02の3位で終わった。片山は練習投擲で30mを超える投げを立ち投げで見せ絶好調のように思われた。そんな中、1投目は緊張していたせいか25m程、2投目も27m程で今回も記録が出ないかと心配されたが、3投目で31m31を出し精神的な成長を見せた。4、5投目は30m前後の記録で、6投目はファールにおわり、記録を伸ばすことができなかった。結局31m31の7位であった。2人とも今回の試合で大学ベストを出したが、さらに上位を目指せる力についてはいるため、今シーズン大きくベストを更新することが期待される。

この種目東大は8点を獲得。関カレ、七大戦などでも得点が期待される種目であり、両人には今回の反省を活かしもう一回り大きくなってもらいたいところである。

14:00 男子三段跳 決勝

廣瀬(5年)、西田(4年)の出場。故障中の定金に代わり補欠の廣瀬が出場した。この種目の前に行われた男子走幅跳が延長し、20分ほど遅れての開始となった。出場選手が8名のみで、全員が6本跳躍することができるという好機に恵まれた。

廣瀬は昨年度の京大戦以来となる試合への出場となった。競技から離れていたブランクがありながらも、練習跳躍か

ら砂場にはしっかり着地してみせた。しかし、1本目の記録はベストを大きく下回る13m34。この後5本の跳躍をするも、記録は伸びなかった。西田はこの日、4種目目の出場。走幅跳を終えてすぐの競技になった。立続く出場で疲労もあったのか、よい跳躍ができない。一本目の跳躍を終えると、100m決勝出場のためピットを後にする。結局、競技中に戻ってくることはなく、記録は13m37に終わった。結果、西田が13m37で7位、廣瀬が13m34で8位となった。

今回は両選手とも実力を発揮しきれなかったが、三段跳は実力者のそろそろ種目であることは確かである。関カレを含めた今後の対校戦での活躍を期待するとともに、この流れを受け継ぐ若い選手の育成も必要だろう。

14:00 男子棒高跳 決勝

原(4年)、土居(3年)の出場。気温は低い、日差しが暖かい中での試合となったが、風は安定せず、難しい状況であった。原は、足首の怪我の影響や、他種目との兼ね合いにより、土居は肩の怪我によって、ほとんど跳躍練習をしない中での試合となった。このため、最低でも記録を残し、得点することを目標とした。

原はスタートの3m00、続く3m30は、グリップに余裕があり、1発クリア。3m40、3m50も同じ調子で跳躍を続け、1跳目を失敗しながら、微調整していずれも2跳目で成功した。しかし、続く3m60では高さが足りず、自己ベスト10cm更新の3m50、6位で試技を終えた。一方、3m20からスタートした土居は、アップライト調整に苦しみながらも、これを3跳目でなんとかクリア。3m40もアップライト調整を繰り返し、3跳目にクリアした。3m60でも高さは足りるものの、バーの真上に落ちてしまい2跳を失敗。3跳目は強風に吹かれ、踏み切れずに失敗し、7位で試技を終えた。

公式記録では自己ベストとはいえ、

3m80程度を跳ぶ力のある原、自己ベスト4m00をこえる土居ともに、練習不足を実感する試合となったが、怪我と相談しながら跳躍練習を積んでいかななくてはならないだろう。

14:00 男子砲丸投 決勝

原(4年)、佐々木(2年)の出場。晴れてはいたが気温はやや低く大記録は狙いにくい状況であった。六大戦だけあって、周りの選手のレベルは高く原、佐々木両選手は自らのベストの力を発揮して少しでも上位に入賞することが期待された。しかし原は、棒高跳の試技が同じ時間に行われていたため、練習投擲を終えた後に棄権を決めた。結果、残された佐々木は一人で戦うこととなったが、前半の3投ではグライド投法で、安定した記録を残していった。1投目は9m65で、2投目は9m52だったが、3投目では10m24としっかりと10m台に記録をのせてきた。4投目からは佐々木が本来得意としている回転投法で試技に臨んだ。4投目をファールとしてしまい緊張感が高まる中、5投目は飛距離が出たように見え期待が高まったが、惜しくもファールとなってしまった。結局悪い流れを変えることができず、6投目もファールとなって記録は10m24、8位で試技を終えた。

円盤投を終えた直後の佐々木にとっては状況が厳しかったと思われる。一人に負担がかかりすぎないように投擲パート全体で砲丸投に取り組み、切磋琢磨して対校戦でも活躍できるような力をつけていきたい。

1.4 試合結果

第43回東京六大学対校陸上競技大会
於 霞ヶ丘国立陸上競技場 (H22.4.3)

男子 100m 決勝 (+0.3)

1	小林雄一	法大	10"52
2	本橋秀章	慶大	10"67
3	小原真悟	早大	10"71
4	石川純	明大	10"86
5	吉田洸平	明大	10"92
6	西田昂広	東大	11"06(着差なし)
6	梶将徳	早大	11"06(着差なし)
8	阿久津陽介	立大	11"22

男子 100m 予選

1組 (+1.2)

5 春日慶輝 東大 11"22

2組 (+1.7)

4 西田昂広 東大 11"11

男子 400m 決勝

1	浦野晃弘	早大	47"36
2	中村達郎	早大	48"19
3	田村純一	立大	48"28
4	徳永大地	明大	49"15
5	大野三津雄	慶大	49"94
6	山口雄司	立大	50"23
7	半田隼斗	法大	53"12
-	三浦祥平	慶大	DNS

男子 400m 予選

1組

5 大澤渉 東大 50"67

2組

- 舩島一樹 東大 DSQ

男子 800m 決勝

1	粟津良介	明大	1'54"41
2	石丸信吾	明大	1'54"65
3	勝俣章博	法大	1'54"94
4	大城武	早大	1'56"06

5	横田将大	慶大	1'56"92
6	石原太地	早大	1'57"43
7	嘉瀬貴祥	立大	1'57"86
8	渡邊拓也	東大	1'58"08
9	浜口文弥	慶大	1'58"12
10	栗田翔太	立大	1'59"77
11	小宮圭治	法大	2'01"30
12	<u>園部竜也</u>	東大	2'02"16

男子 1500m 決勝

1	松本翔	明大	3'58"66
2	渡邊昂	法大	3'58"78
3	内田皓大	早大	3'59"06
4	卯木研也	早大	4'00"31
5	賀上弘基	法大	4'01"39
6	廣瀬大貴	明大	4'05"30
7	坂庭大輝	慶大	4'05"81
8	菊池涼平	法大	4'07"45
9	榊原奨太	立大	4'08"59
10	<u>山田竜也</u>	東大	4'09"46
11	<u>大内田弘太郎</u>	東大	4'10"82
12	櫛田貴茂	慶大	4'12"58

男子 5000m 決勝

1	矢澤曜	早大	14'07"61
2	菊池賢人	明大	14'19"95
3	八木勇樹	早大	14'24"43
4	北魁道	明大	14'29"36
5	鍵谷亮	法大	14'53"19
6	齋藤大樹	慶大	14'57"75
7	<u>東大貴</u>	東大	15'05"04
8	<u>宮野健司</u>	東大	15'17"75
9	賀上弘基	法大	15'25"64
10	小谷野尚光	立大	15'34"98
11	平塚知成	慶大	15'41"34
12	下地航	立大	16'23"84

男子 110mH 決勝 (-2.4)

1	矢澤航	法大	14"31
2	日野勇輝	早大	14"52
3	竹中航	法大	14"91
4	原将人	慶大	15"11
5	秋山大輔	早大	15"18

6	佐々木洸	明大	15"26
7	酒谷彰一	東大	15"57
8	小島弘毅	慶大	15"67

男子 110mH 予選

1組 (+0.3)			
5	酒谷彰一	東大	15"67
2組 (-1.2)			
4	増本健太郎	東大	15"81

男子 3000mSC 決勝

1	末山貴文	法大	9'00"02
2	妹尾大	明大	9'05"35
3	神内隆年	早大	9'19"42
4	田澤範樹	早大	9'23"63
5	田子祐輝	法大	9'23"71
6	青木佑樹	東大	9'27"96
7	笹崎高志	明大	9'35"46
8	渡邊駿	東大	9'58"26
9	野沢好智	立大	9'58"32
10	櫻井優也	立大	10'04"84
11	鐵本智大	慶大	10'06"37
12	松田昂大	慶大	10'10"90

男子 4 × 100mR 決勝

1	早大	40"31
2	慶大	41"13
3	明大	41"33
4	東大	42"34
(増本-西田-真木-春日)		
5	立大	42"44
-	法大	DSQ

男子 4 × 400mR 決勝

1	早大	3'11"25
2	慶大	3'13"12
3	法大	3'13"92
4	立大	3'14"26
5	明大	3'19"84
6	東大	3'29"02
(肱島-大澤-渡邊-赤木)		

男子走高跳決勝

1	笹嶋達也	法大	2m05
2	宇都宮健佑	慶大	1m95
3	佐佐木彰之介	法大	1m85
3	小栗良太	慶大	1m85
5	有馬佳一郎	早大	1m85
6	藤原啓史朗	立大	1m75
6	土井翔太	早大	1m75
8	坂本智	東大	1m75
9	三宅大輔	立大	1m70
10	地子智浩	東大	1m70

男子棒高跳決勝

1	笹瀬弘樹	早大	5m30
2	安藤大地	早大	4m90
3	丹治瑞生	法大	4m40
4	石川航平	慶大	3m50
5	原湖楠	東大	3m50
6	土居富裕	東大	3m50
7	伊藤悠一	慶大	2m50
-	加藤庸輔	法大	NM

男子走幅跳決勝

1	戸谷隼人	法大	7m56(+0.6)
2	早野雅人	早大	7m24(+0.1)
3	井上公佑	法大	7m20(+1.0)
4	宮岸暖	慶大	7m15(-0.1)
5	藤原啓史朗	立大	6m88(+1.1)
6	西田昂広	東大	6m73(+1.4)
7	辻岡夏彦	早大	6m66(+2.3)
8	石川航平	慶大	6m53(+0.8)
9	酒谷彰一	東大	5m81(-2.6)
-	山口雄司	立大	DNS

男子三段跳決勝

1	渡辺真也	法大	15m11(-0.5)
2	戸谷隼人	法大	14m85(-0.6)
3	重村有亮	慶大	14m65(+1.9)
4	廣中誠音	慶大	14m36(+2.5)
5	早野雅人	早大	14m10(+1.3)
6	辻岡夏彦	早大	13m69(+2.5)
7	西田昂広	東大	13m37(+1.7)

8	廣瀬彬	東大	13m34(+1.7)
-	山口雄司	立大	DNS
-	松堂永	立大	DNS

男子砲丸投決勝

1	秋本壯樹	慶大	15m53
2	飯室延郎	法大	13m91
3	古市裕磨	法大	13m73
4	窪田章人	早大	13m68
5	有間佳一郎	早大	13m03
6	佐藤一桐	明大	12m75
7	南部達也	慶大	11m54
8	佐々木駿	東大	10m24
9	天野佑介	立大	9m73
-	原湖楠	東大	NM
-	三宅大輔	立大	DNS

男子円盤投決勝

1	有間佳一郎	早大	39m04
2	堀内隆太	慶大	38m54
3	佐々木駿	東大	38m02
4	大塚宗	法大	35m68
5	窪田章人	早大	35m40
6	古市裕磨	法大	33m09
7	片山卓也	東大	31m31
8	緋田亮	慶大	30m67
9	三宅大輔	立大	21m63
10	渡邊祐太	立大	20m81

男子やり投決勝

1	神崎真悟	早大	64m35
2	矢野恵大	早大	62m60
3	久世満生	慶大	56m37
4	古市裕磨	法大	56m36
5	三宅大輔	立大	53m22
6	堀内隆太	慶大	49m11
7	原湖楠	東大	40m77
8	飯室延郎	法大	37m48
9	今村昌平	東大	33m13

男子トラック順位

1	早大	94
---	----	----

2	明大	71
3	法大	58
4	慶大	38
5	立大	20
6	東大	16.5

男子フィールド順位

1	早大	73.5
2	慶大	63.5
3	法大	63.5
4	東大	22
5	立大	10.5
6	明大	3

男子総合順位

1	早大	167.5
2	法大	121.5
3	慶大	101.5
4	明大	74
5	東大	38.5
6	立大	30.5

2 09年度部内五傑

本戦が今年度の初戦でした故、部内五傑はお休みさせていただきます。ご了承下さい。
なお、09年度部内五傑の決定版は会報(復刊第五十七号)にて掲載致しますのでご参照下さい。

3 自己記録更新者一覧

2009.10.24 ~ 2010.4.3

10/24 第202回日体大長距離記録会(日体大)

800m	近藤堯之(3年)	2'02"08
800m	池田剛志(2年)	2'03"26
1500m	渡邊拓也(3年)	4'02"57
1500m	大内田弘太郎(1年)	4'14"26
1500m	木内久雄(3年)	4'14"50
1500m	須田遊人(4年)	4'19"13
1500m	鈴木俊輔(2年)	4'21"39
3000m	浜松由莉(1年)	10'48"08

10/31-11/1 第9回東大競技会(駒場)

400m	須田遊人(4年)	53"00
1500m	大内田弘太郎(1年)	4'11"75
1500m	渡邊駿(1年)	4'19"05
1500m	近藤堯之(3年)	4'22"32
5000m	渡邊駿(1年)	15'49"11

11/1 高畠競歩(高畠町)

20kmW	早川晃司(3年)	1:37'49"
-------	----------	----------

11/7-8 第203回日体大長距離記録会(日体大)

1500m	須田遊人(4年)	4'15"92
5000m	宮野健司(2年)	14'57"25

11/20 第204回日体大長距離記録会(日体大)

5000m	中島圭一(3年)	15'58"36
-------	----------	----------

12/12 第27回平成国際大学競技会(平国大)

3000m	浜松由莉(1年)	10'36"71
3000m	鈴木恵美里(2年)	11'48"68
5000m	大内田弘太郎(1年)	15'50"18
10000mW	早川晃司(3年)	46'36"50

1/1 元旦競歩(神宮外苑)

20kmW	早川晃司(3年)	1:34'57"
-------	----------	----------

1/31 ジュニア選抜競歩大会(南山大学)

10kmW	瀧川朗(1年)	45'34"
-------	---------	--------

2/7 神奈川マラソン(横浜市内)

ハーフマラソン	岩川純也(1年)	1:14'57"
---------	----------	----------

3/14 立川・昭島マラソン(昭和記念公園)

ハーフマラソン	青木佑樹(2年)	1:09'14"
ハーフマラソン	渡邊駿(1年)	1:11'46"
ハーフマラソン	中島圭一(3年)	1:12'04"
ハーフマラソン	野田智博(1年)	1:13'47"

3/14 第34回全日本競歩能美大会(能美市)

20kmW	早川晃司(3年)	1:31'24"
20kmW	瀧川朗(1年)	1:36'37"

3/25 春季オープン(駒沢公園)

10000mW	早川晃司(3年)	43'57"57
10000mW	瀧川朗(1年)	46'23"46

4/3 六大戦(国立)

800m	鈴木俊輔(3年)	2'09"67
1500m	大内田弘太郎(2年)	4'10"82
3000mSC	青木佑樹(3年)	9'27"96
3000mSC	渡邊駿(2年)	9'58"26
5000m	野田智博(2年)	15'46"77
やり投	今村昌平(2年)	33 m 13
円盤投	佐々木駿(2年)	38 m 02
円盤投	片山卓也(2年)	31 m 31

いずれの試合も学年は試合期日当時のもの。

4 主務より

4.1 応援OB・OG紹介

4/3(土)に、国立競技場にて行われました六大戦に際し、応援に駆けつけて下さったOB、OGの方のご氏名をご卒業年順に報告いたします。(敬称略)

1948卒	山崎英也
1963卒	梅津祐良
1979卒	中谷敬二
1983卒	八田秀雄
1988卒	寺田秋夫
1991卒	小野満
2001卒	岡野浩行
2003卒	橋本武
2006卒	田中佑貴
2008卒	松本翔
2008卒	持永新
2008卒	倉員智瑛
2009卒	小福田大輔
2009卒	松本光一
2010卒	荒井博貴
2010卒	石川恭平
2010卒	川村知正
2010卒	日下桃子
2010卒	坂井啓一
2010卒	清水蘭
2010卒	西川鋭
2010卒	野村圭吾
2010卒	横田祥

ご多忙の中、お越し下さいましたことに現役部員一同、心より御礼申し上げます。

4.2 行事予定

今後の行事予定をお知らせいたします。

- 第11回東大競技会
4/24(土)・25(日) 駒場グラウンド
- 関東IC
5/15(土)・16(日)・22(土)・23(日) 国立競技場
- 国公立戦
6/13(日) 大井
- 四大戦(主管)
7/3(土) 上尾
- OB・OG戦(T・Kマスターズ)
(仮)7/10(日) 駒場グラウンド
- 七大戦
7/31(土)・8/1(日) 名古屋・瑞穂
- 一橋戦(主管)
9/4(土) 駒場グラウンド
- 日本インカレ
9/3(金)・4(土)・5(日) 国立競技場
- 京大戦
10/9(土) 京都・山城
- 箱根駅伝予選会
10/16(土) 国立昭和記念公園
- 第12回東大競技会
10/30(土)・31(日) 駒場グラウンド

4.3 連絡先(慶弔等)

慶弔のご連絡は下記連絡先までお願い申し上げます。

総務委員長:田上静之

TEL : 03-3835-6792

(凸版印刷株式会社経営監査室)

E-mail : seishi.tanoue@toppan.co.jp

学生主務:早川晃司

〒181-0013 東京都三鷹市下連雀3-39-11

TEL : 090-5761-9980

FAX : 0422-47-8726

E-mail: shumu@uttff.org

この部便りは下記 web ページでもご覧になれます

<http://www.uttff.org/>

また、現在、陸上運動倶楽部のメーリングリスト「uttff club」にて、大会結果の速報および部便りのメール送付等を行っております。メーリングリストへの登録をご希望の方、もしくは部便りの郵送不要の方は、お手数ですが学生主務までご連絡下さい

主務 早川晃司

文責 : 木内久雄